

# ICT を用いたハワイ・オアフ島と五島の小学校の 英語交流授業について

中村典生・倉田 伸・松元浩一・鈴木章能

## On the English Class Exchange by ICT between the Elementary Schools on Oahu and Goto Islands

Norio Nakamura, Shin Kurata, Koh-ichi Matsumoto, Akiyoshi Suzuki

### 1. はじめに

子どもの教育の不平等の問題が指摘されて久しい。家庭の所得の違いが不平等の要因であることはよく知られているが、居住地域の違いも見逃せない要因である。こと英語学習の環境は、海外の人々と接する機会、多様な文化を直に経験する機会が都市部と離島・へき地でかなり異なり、都市部が圧倒的に有利である。都市部では、日本人が英語を用いる機会、ならびにその光景は日常的なものである。一方、離島・へき地では非日常なものである。このこと自体によって、子どもたちの英語への意識の差が生じ、また子どもたちが日頃英語を用いる機会にも差が生まれる。加えて、離島・へき地では児童・生徒数が比較的少ない学校も多くあり、多様な英語の発音や表現、意見を耳にする機会も少ない。離島・へき地の児童・生徒も都市部と同じような英語の学習環境が担保される必要がある。<sup>1</sup>

この問題を解決するため、筆者たちは2016年から情報通信技術（ICT）を用いて日本の離島・へき地の小学校同士、ならびに日本の離島・へき地の小学校と海外の小学校の多民族学級を結んで英語を学ぶ方法や、それを実現するプラットフォームの構築に取り組んできた。<sup>2</sup> その取り組みの一環として、これまで北海道のへき地や新潟県の佐渡島にある小学校と長崎の五島の小学校を ICT でつないだ英語の交流授業を行ってみたが、今回は、ハワイのオアフ島にある小学校と五島の小学校を ICT でつないだ英語の交流授業を行ってみた。本論では、その実践を報告するとともに分析を行う。

### 2. 方法

まず、小学校の選定について述べることから始めよう。ハワイの小学校の選定は、サバティカルのためにオアフ島のハワイ大学に籍を置き、ハワイに滞在していた倉田伸が行った。選定にあたっては、様々な民族の子どもがいることに留意した。五島の小学校につい

1 離島・へき地の学校における英語教育が都市部に比べてすべての面で不利であるということではない。松元ほか（2016）が指摘するように、離島・へき地の学校は比較的少人数のクラスであるため、英語教育には適した環境にあり、また複式学級では情緒の発達面で有利である。この有利な面を生かして、地理的な課題を克服するのが本研究の課題である。

2 その成果や理論的な議論については、Suzuki, et al, (2017), Kurata, et al (2018) を参照。

ては、本プロジェクトのために中村典生ならびに倉田が2016年から五島市教育委員会と協議して、その都度、選定してきたが、今回も同教育委員会との協議を通して小学校を選定した。

ハワイと五島の小学校の交流授業では、すでに行った北海道や佐渡島と五島の小学校の授業と同じく、五島の小学校が用いている『Hi, friends!』1のLesson 7 “What's this?”を基にし、自分の地域の文化をわかりやすく双方に伝え合い（プレゼンテーション）、質疑応答をもって英語でのコミュニケーションを行うこととした。交流授業で用いた通信ソフトウェアはZOOMである。また、双方の学校で、児童がほぼ等身大で映し出されるスクリーンを用いて、あたかも同じ空間で授業をしているように感じられる工夫を行った。授業内容は、日本の小学生の英語学習と実際の小学校での学習達成度等を中村が分析し、1) 挨拶、2) 双方の小学校の児童がグループごとに文化の紹介を行う、3) 質問の受け答えを行うというものにし、また松元浩一が英語学の観点から、予想される英語の発話を想定して、交流授業の可能性を確認した。これらの分析に基づいて倉田が授業案を作成した。

この授業案をハワイと五島の小学校の両担任に伝え、各小学校で準備を進めてもらった。グループごとに文化の紹介を行うとき、ハワイでは写真等を見せながら文化を伝えるという方法を用いることにした一方、五島の小学校では写真等を見せながらクイズを出し、答えてもらうという方法を用いることにした。準備にあたっては、以下の点に気をつけてもらった。まず、英語がわかりやすく伝わるように、双方の小学校の児童に声の大きさや話すスピードに気をつけて練習をしてもらうようにした。また、五島の児童には日本語とは異なる、英語独自のリアクションの言葉を用いるように練習をしてもらった。一方、日本の小学生の平均的語彙に配慮して、ハワイの児童には用いる語彙をできる限り限定してもらうようにした。プレゼンテーションのテーマについても、あらかじめ食べ物、祭、地理、観光地の四つに絞ることで、質問の受け答えが活性化するようにした。なお、異文化理解については、鈴木章能(2018)が指摘する異文化理解における留意点を参考にして、文化的差異とともに類似性をも考えさせること、すなわち、多様性の中の類似性と類似性の中の多様性の両方を認識、理解させ、差異の尊重のみならず共感理解の心を育むことに配慮した。授業当日は、両小学校の担任教員に、児童たちがコミュニケーションに困った場合は支援してもらうことをお願いした。具体的に言えば、五島の小学校の担任教員には、児童がハワイの小学校の児童が話す英語を聞き取れなかったり、伝えるための英語に困った場合、ハワイの小学校の担任教員には五島の児童が話す英語が聞き取れなかったとき、各々の児童のコミュニケーションを手助けするようにしてもらった。授業当日は、ハワイで倉田が、五島で中村が授業参観を行った。

### 3. 授業案と授業の様子

中村、松元、鈴木の分析や指摘に基づいて倉田が作った授業案を示す。その後に、当日の授業の様子を写真にて示す。授業案は以下の通りである。

1. Date of class: 02/22/2019 9:00(GI *) / 14:00(HI *)
2. Students: 5 <sup>th</sup> grade students at an elementary school in the Goto island(GI). 5 <sup>th</sup> grade students at an elementary school in the Oahu, Hawaii(HI).
3. Subjects: Foreign Language Activities(GI)/ Social Studies(HI)
4. Purpose: To convey our culture to overseas classmates using English in an easy-to-understand way (GI)(HI)
5. Materials: 『Hi, friends!』1, Lesson 7 “What’s this?” (GI)

The lesson plan of distance learning in elementary school between Japan and Hawaii

	Contents of activities	Activities of teachers	note
1 min	1. Greeting for start (everyone) GI> greeting from students HI> greeting from students		
4 min	2. Greeting (principles) GI> greeting from the principle HI> greeting from the principle		
2 min	3. Confirming about purpose GI> explain from Board of Education at the Goto islands.		
	- To convey our culture to overseas classmates using English in an easy-to-understand way (GI&HI)		
27 min	4. presentation (three minutes. eight groups) -The flow of presentation on one group 1) “Hello. My name is…” (All members say) 2) “Look at this picture. What’s this?” (showing pictures) ex. regional festival, special goods, … 3) “Any questions?” (Q&A session) 4) “That’s all, Thank you.” ->next group NOTE: In turns.	-Basically, using English. -If students use Japanese, the translator supports them. -students give hints to increase discussion because it is difficult to guess just by looking at photos. ex. category, gesture, …	-Each 4 groups  -Prepare photos etc -Points for Presenters - clear voice - eye contact - speed of speech -Points for listener - reaction -ex. for theme - food - festival - map - Tourist attractions
5 min 1 min	5. Greeting of the end by a representative student in each school.  6. Greeting for finish (everyone) GI&HI> "Thank you! See you!"		
5 min	7. Reflection GI&HI> writing reviews to paper	-at each school (disconnection the internet)	

\* GI: Goto island / HI: Hawaii (Oahu)



図1. 五島とハワイのそれぞれの授業風景の様子

#### Flow of the class

#### 4. 分析——結果・効果・課題

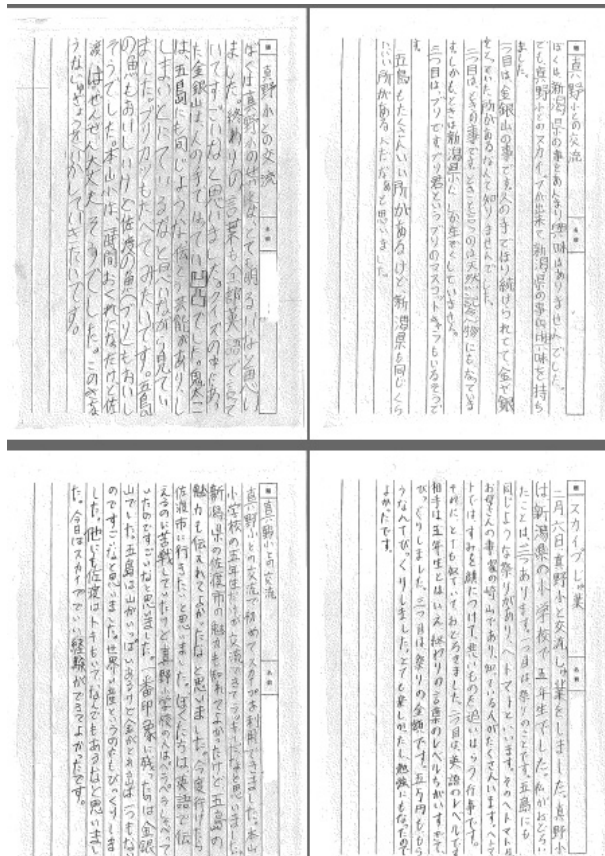
授業は比較的スムーズに実践できた。発言も比較的闊達であった。当初、英語を第一言語とするハワイの小学生と、外国語としての英語を学ぶ五島の小学生の間で、英語によるコミュニケーションが成立するのかといった懸念があったが、予想以上に理解し合っていた。こうした結果をもたらした最も大きな要因として考えられるのは、教師の役割である。授業内容や語彙を制御し、かつ教師の支援があれば、英語のネイティブスピーカーの小学生と日本の小学生との間で英語による交流授業が不可能ではないことが確認できた。異なる国との交流授業における教師の具体的な役割とは、1) 共同で授業案を調整すること、2) 授業中の児童のコミュニケーション支援であり、これらのことを通して、3) 教員同士の国際共同研究に発展する可能性が期待できることも確認できた。

授業後、両小学校の児童にアンケート調査（自由書式）を行った（図2）。回収枚数は五島が20枚、ハワイが17枚であった。分析のために、鈴木が書かれた文章からコーパスを作り、目立った言葉や文を順に列挙した。それによると、五島は「楽しかった」（13）、「またやりたい」（10）、「ハワイの文化をもっと知りたい／五島の文化をもっと伝えたい」（10）、「英語が理解できた、自分の英語が伝わった喜び」（9）、「もっと英語が勉強したい」（8）、「世界のいろいろな国と同様の授業がしたい」（3）、「国内のいろいろな小学校と同様の授業がしたい」（3）であった。一方、ハワイは、「楽しかった」（14）、「またやりたい」（13）、「英語表現やクイズ型式といったアイデアなど、自分がもっと勉強する必要がある」（11）、「五島の児童のアイデアが素晴らしかった」（10）、「五島の文化をもっと

知りたい／ハワイの文化をもっと伝えたい」(9)、「実際に会って交流したい」(7)、「五島の児童の英語が想像以上に素晴らしかった」(4)だった。ハワイの小学生が五島の小学生のアイデアを賞賛した理由は、ハワイの小学生が文化を説明的に紹介した一方で、五島の小学生はクイズ型式で紹介したことにある。このことを受けて、「英語表現やクイズ方式といったアイデアなど、自分をもっと勉強する必要がある」という回答の数が増加したと考えられる。なお、両校とも、後で述べるインターネット回線の不具合に対する意見以外、マイナスの意見は皆無であった。

いずれにせよ、児童の圧倒的多数が今回のような交流授業をさらに行いたいと考えている。また、ハワイの児童も日本の児童も今回が海外の小学校との初めての交流で、互いの文化をもっと知りたいと述べているだけでなく、実際に会ってみたいとも述べているとおり、文化的にも人間的にも強い関心を示している。このことから、ICTを用いた交流授業が異なる国の小学校の交流を大いに促進する役割を担うことがわかった。また、五島の小学校では、英語のネイティブスピーカーに自分の英語が通じた喜びを述べる意見も多く、英語学習により力を入れたいと考えるようになった児童も少なくなかった。このことから、ICTを用いた海外との交流授業は学習のモチベーションを高める効果も大きいことが確認できた。さらに、ハワイの多くの児童が五島の児童のクイズ型式によるプレゼンテーションに触発されて、学習のモチベーションを高めているように、英語による海外の学校との交流授業は、ネイティブスピーカーから非ネイティブスピーカーに対する一方的な英語学習ではなく、互いの学びを促進する効果があることがわかった。

一方で、課題も残った。国内の小学校同士で行った授業では問題がなかったが、ハワイと五島を結んだ今回の授業ではインターネット回線が不安定になった。国内外の三校以上の小学校を同時にインターネットで結ぶことになった場合は、さらなる回線の不安定さが懸念される。こうなると、サイバースペース上の教育の場の構築が難しくなる。国内外の、より多くの離島・へき地にある学校同士が交流授業を行うために、安定したプラットフォームを構築する工夫が重要である。



02/22/19 14:00

Your class: U18 4/5

Please give us your feedback.

(1) Let's write the impression of exchange learning via the internet today.

I liked how they gave us a quiz and how they had so much detail. I also liked having to hear them speak english to us. Lastly, I loved how they just payed attention to our class presentation to them

(2) What would you like to do if you learn exchange learning via the internet again?

I would love to have better internet to hear/see them better. Also, maybe we could give them a quiz that we can all do together. The last thing I would like to share about our culture

Thank you for your cooperation.

02/22/19 14:00

Your class: U18 4/5

Please give us your feedback.

(1) Let's write the impression of exchange learning via the internet today.

I think the idea of talking with another class and exchanging knowledge I also thought that their english would be bad but from the information I am getting their english was good.

(2) What would you like to do if you learn exchange learning via the internet again?

I would like to do a kahoot with the people. Kahoot is like a quiz game.

図2. アンケートの例 (上段: 五島, 下段: ハワイ)



## 5. まとめ

国内外の様々な離島・へき地の学校をICTでつなぎ、サイバースペースを「都市」空間とすることによって、離島・へき地の児童・生徒に都市部と同じような英語の学習環境を担保するプロジェクトの一環として、ハワイと五島の小学校をICTでつないだ英語の交流授業を実践し、その報告と分析を行った。

英語を第一言語とする小学生と日本の小学生の交流授業は不可能ではない。教師が互いに授業案をすり合わせ、用いる語彙や話すスピード、声の大きさ、テーマの絞り込みを行い、授業中は児童のコミュニケーションをサポートすることで、同形式の交流授業は十分可能となる。児童も、文化的、人間的関心を深めるほか、英語のネイティブスピーカーの児童から日本の児童への一方的な英語学習ではなく、互いが学びのモチベーションを促進することができる。こうした結果は、北海道ならびに佐渡島と五島の小学校で行った英語の交流授業で得られた成果と同様のものである。<sup>3</sup>異なる文化に属する子どもたちが、離島という条件ゆえに異なる文化や異なる英語との直接的な接触が困難であるという教育課題を克服し、英語力を動機づけや豊かな人間力と共に高めていけることが確認できた。

いずれにせよ、海外の小学校同士をICTで結んだ交流授業は児童たちにとって貴重な思い出になり、今後の彼らの学習や人生に大きなプラスとなったことは間違いない。こうした貴重な価値をもつ交流授業を二校間のみならず、世界に広げるためにも、インターネット回線をはじめ、いつでもどこでも繋がれる安定したプラットフォームを構築する必要がある。このことについては今後の課題としたい。

## 参考文献

- Kurata, S., et al.(2018) I-City, or a new classroom for EFL in times of change: Its theory and practice. *Surviving & Thriving: Education in Times of Change*, 445-451.
- Suzuki, A., et al.(2017) Using modern technology to address traditional geographic and economic limitations in education. *Proceedings of the 11th International Multi-Conference on Society, Cybernetics and Informatics 1*, 50-55.
- 鈴木章能 (2018) 「多様性の中の類似性, 類似性の中の多様性—異文化・文学・映画・世界平和」, シルフェ英語英米文学会編『シルフェ<本の虫>が語る楽しい英語の世界』, 120-33.
- 松元浩一・鈴木章能・中村典生・倉田伸 (2016) 「複式学級でのICT活用による小学校英語活動指導力育成カリキュラムの開発 委託事業成果報告書」長崎大学教育学部。

---

3 Kurata, et al (2018) を参照。

